

かぜ 栄光台の薫風

2001年 第1号

栄光台の薫風に寄せて



北陸学院短期大学 同窓会会長
森 正栄
1954年度卒業 保育学科4回生

栄光台は今、木々の青葉をわたる風の爽やかさに満ち、野の小さな花は、行き交う人々に和みを与えています。

この3月に行われました短期大学の卒業式では、人間福祉学科の第一期生を送り出され、誠にお目出度いこととお慶びいたしております。卒業された5学科367名の方々を新入会員としてお迎えした短期大学同窓会は、現在会員数が、12,000名を越えました。

丁度10年前の1991年に同窓会一本化の機運が高まり、各科独自の活動をもちながらも折りにふれ、時を得て心を合わせた会を催し、1996年からは短大祭の中一日に開く“蚤の市”は同窓会恒例の行事となりました。そして昨2000年の開学50周年記念の年に、全ての活動も組織も一つとなった名実共の短期大学同窓会が発足するに至りました。各学科での専門教育を積まれ、社会に出て更に様々な教養を身につけられた姉妹方が、その業を充分に発揮されて結集する力は大きく、尊いと今感じております。

同じ学び舎に学んだ私達同窓生は、これから交流を密

にして励まし合い、この困難に直面する社会と母校への貢献に力を尽くしたいと願っています。この目的に添うため、なお組織の充実を図っていきます上に、皆様方の力強いご協力、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

教育機関の揺れ沈む昨今、母校は揺るぎない伝統と社会評価を以って、昨年開学50周年記念の慶事を持たれました。創設当時はさまざまな困難があっても、建学の精神に基く神への強い信仰に生きた教育への情熱、更には各界より寄せられた多くの支援があったことなど式典を通して今一度心に留め、同窓生として

母校と共に、感謝の祈りを捧げる喜びに満たされました。母校のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

最後に同窓会のシンボル・デザインであります“ぶどうの木”に因む聖句を記し、創刊のご挨拶といたします。

「わたしはぶどうの木、

あなたがたはその枝である」

(ヨハネによる福音書15章5節)



◇ 北陸学院短期大学同窓会 ◇

第1回 総会開催のお知らせ

* 日時 *

2001年7月7日(土)午後1時30分～

* 場所 *

北陸学院短期大学三小牛キャンパス
(番匠鐵雄記念礼拝堂・国際交流研修センター)



番匠鐵雄記念礼拝堂



国際交流研修センター

「つよい一本の矢となって」



北陸学院 学院長
井上 良彦

毛利元就は、生涯に二百回を超える戦さをして一度も負けなかった、という不敗記録を持つ戦国武将でした。三本の矢を示して、このように結束せよと子供たちに諭したのです。しかし三代目になったときは、中国道八ヶ国のうち防長二州を残して、他はすべて失ってしまいました。山本七平氏の『徳川家康』によると、輝元の平和ボケが江戸の狡智にすっかりやられてしまった、ということらしいです。

歴史のアナロジーになるかどうかわかりませんが、経済大国と得意になっていたわが日本が、今や尾羽うち枯らした姿に転落して意気あがらない現状を連想させられます。戦国バブルが収縮してゆくときの歴史の必然かもしれません。

それとまた同じ類比と言えるかどうかはさだかではありませんが、いま日本中の私学が大きな変動再編期にあります。少子化で学生生徒のパイの絶対量

は小さくなり、学校の数だけはあまるほどに増加しています。ふつうの感覚で考えますと、立ちゆかなくなる学校が当然のこと続出するでしょう。

北陸学院がこの大勢から無縁であるはずはありません。私学の危機なるものはしかしながら、どの学校にも平等に平均化した結果となるわけではありません。良くなる学校と脱落する学校が生じるのです。

このたび、わが短期大学が各学科別でなく、あのサンフレッチェ（三本の矢）のように、一つに結束して、母校の支えとなってくださるということを聞き、これほど嬉しいことはありません。結束があれば、危機を乗り越える力も数倍となります。50年の歴史は一世紀の半分、道半ばというべきでしょう。同窓の皆さんがこの尊い愛すべき北陸学院の歩みを激励していただき、立派に歴史を完走して栄光に到達できるようにと、日夜祈らざるを得ません。

同窓会創刊号に寄せて



北陸学院短期大学 学長
大隅 恵子

北陸学院短期大学は2000年4月に開学50周年を迎えました。50年という歳月の間に「保育短期大学」は5学科を有する短期大学に発展しました。1学科増設される度に同窓会も組織されてきましたので、その活動は学科単位で行われてきました。しかし、50周年を契機に各学科単位の同窓会を統合し、「短期大学同窓会」として一本化して新たに活動を開始することになったとのこと。50年の間に同窓会の会員数も1万2千人以上になり、日本中どころか世界のあちこちでそれぞれ活躍していらっしゃるようです。そのことを住所録が示しています。各方面で活躍する会員相互の連携を深め、母校との絆を密にすることを目指して、このたび「会報」の第一号が発刊されるとのこと。そこに至るまでの同窓会役員の皆様のご努力に心から敬意を表します。

大学にとって、同窓会は大切な宝です。同窓生の

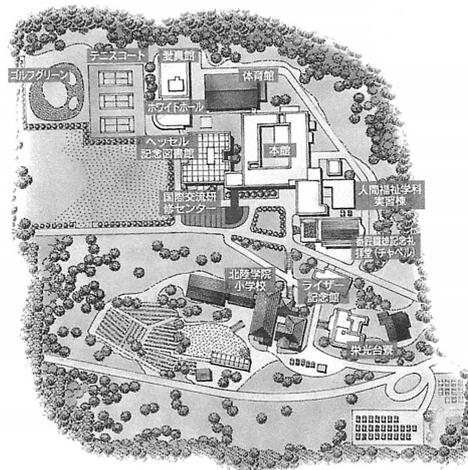
母校に対する熱い思いと祈りが学校を支えて下さるといえます。皆さんに絶えず母校に関心をもつていただき、ご意見等を寄せていただくことで学校はより良い人材を育成し、社会的責任を果たしていくことができます。また、同窓生同士の絆の強さは同時に母校との絆の強さになります。同窓会組織の強弱は卒業生の在学中の生活をいかに充実感をもって過ごしたかによると思います。満足度が高ければ同窓会とのつながりが強くなるでしょう。キャンパスライフの満足感、またそこでの人間関係に満足して卒業した時は、より母校とのつながりが深まり、同窓会を通して母校への帰属感を保ち続けるでしょう。同窓会の活動のありようは同時に大学における教育の成否を反映しているということが出来ます。

同窓会の活動がますます充実し力強い組織になりますよう心から願っています。

栄光台をたずねて

豊かな緑に囲まれた三小の自然は、時間が経っても変わることはありません。若いエネルギーに満ちあふれた現在の短期大学では、日々どのような学院生活が送られているのでしょうか。魅力的な5つの学科の特徴を各学科長の先生方にご紹介していただきました。

さあ、21世紀の栄光台を訪ねてみましょう…。



■ 保育学科

保育学科長
大隈 恵子

保育学科は1950年に「保育短期大学」として25名の定員で開学しましたが、50年へた2001年4月現在では在籍者数が1年生127名・2年生122名と当時から見ると5倍ほどの学生が保育者を目指して学んでいます。

少子化や女子の四年制大学指向の影響で短大進学率の低下が社会問題になっていますが、保育学科を志望する学生は例外的なようです。ただ、大学への進学率が50%近くにまであがり、大学への進学率が高くなると当然質の変化が起こってきます。保育学科もその影響が顕著になっております。この質の変化に私どもは時には戸惑い、途方にくれることもあります。でも、諸先輩から受け継いだ良い伝統を堅持し、保育の現場で喜ばれる保育者を育てたいと努力しています。そのために、基本的な生活習慣を身に付け、コミュニケーションが取れるようにと専門知識や技術の習得以前の問題に教員はかなりの時間を割いています。卒業生の皆さんには馴染みのないアドバイザー制をとり、全教員が十数名の学生の相談や指導を受け持っています。

保育学科の教員は学識経験ともに優れたスタッフにめぐまれ、また若手の研究者も加わり充実したカリキュラムで授業が行われています。朝8時40分から4時55分までの過密ともいえる時間割になっていますし、土曜日には幼稚園などの参観があり、後期には園児の降園後に教師



の仕事学ぶ降園実習を授業後附属園で実施するなどさまざまな方法で即戦力となる人材の育成を図っています。

幼児教育の重要性が一層増している今日、保育者を目指す学生の育成のため保育学科としても研鑽をつみながら指導にあたりたいと願っています。また皆様の暖かいご指導をお願いいたします。

■ 食物栄養学科

食物栄養学科長
野坂 一江

この北陸地区の要望に答え、本学が困難を克服して栄養士養成をはじめて足かけ50年、多くの卒業生が栄養改善、指導に活躍してきました。そして今日は、創設の頃とは異った栄養、健康問題の指導にマンパワーとしての栄養士への期待が高まっております。

従って、いつの時代にあっても人々の期待に応えられ、即戦力となる食の専門家の育成に必要なカリキュラムが検討、幾度か変更されてきました。とくに1985年6月

の法改正で管理栄養士の国家試験が実施されることになり、栄養学の基礎学力を培うことを目的に、基礎専門科目を独立させたり、現在では人間栄養学の立場から活躍できる人材養成へと変わっております。その上、昨年の法改正では管理栄養士の免許制と業務が明文化され、目下カリキュラムの見直しを始めております。

しかし本学は、いつの時代にあっても「変えてはならないもの」は、「キリスト教の信仰に立つ」ということです。学生一人一人がキリストの愛に生かされていることを知



り、自己中心的な考え方をするのではなく、常に他者と共に生きるという姿勢を身につけ集まってほしい。このような願いから基礎科目の1つに体験学習「自己の発見」



が開設され（5学科共通）、本学科独自のプログラムとして「いきいきライフ食事会」を毎年開催しております。近くの老人保養施設に集う高齢者を対象とした昼食会

と栄養、健康講話を内容とし、食物栄養学科2年生全員が参加するものです。また、昨年度からは栄養士を目指し、それぞれ1年間に学習した知識と技術の総合力をみるためのテストを課し、質の向上にと努めております。今後とも同窓諸姉のご指導とご支援を心よりお願い申し上げます。



■ 英語コミュニケーション学科

英語コミュニケーション学科長
澁谷 良穂

英語科は1964年に設立されて以来、実際に役立つ英会話の力を育成することを目標に置きカリキュラムを組んでまいりました。昨年より学科名を「英語コミュニケーション学科」と変更し、コミュニケーションの手段としての英語力の育成を目指したカリキュラムに、そして2002年度にはカリキュラムの見直しを図ってさらに学科の特徴を打ち出して行く予定です。

英語コミュニケーション学科が目指しているのは、自分の考えをしっかりと持ち、異文化を理解する広い視野と、様々な国の人と英語やコンピュータを使って実際に意志の疎通が図れる力の両方を持った、国際社会で活躍できる自立した女性の育成です。

現代社会におけるコミュニケーションの手段として不可欠な英語とコンピュータの二つを柱として、基礎から応用まで身につくようにカリキュラムが組まれています。学生の英語力に応じてクラスを設定し、小人数クラスで、ネイティブ・スピーカーを中心に懇切な指導ができる体制を整えています。英検だけでなく、全員にTOEICに挑戦させ、上位者は四大生を凌駕する成績を残しており、その成果は各種英語スピーチコンテストの入賞という形となってあらわれています。また、卒業後の就職に役立つ、ワードプロセッシングや表計算など、コンピュータの基礎技能を学びながら、インターネットや電子メールなどを使って情報を検索・収集し、同時に自分で情報発信する力も育成していきます。



豊かな国際感覚と広い視野を身につけ、国際社会に対応していくための異文化理解の科目があり、またアメリカ語学研修、オーストラリア体験学習など、様々な異文化体験ができるプログラムも用意されています。昨年度からは在学中の留学が可能になり、提携校のキャピタル大学などで、最長半年間の留学をし、2年間で卒業することができるようになりました。（留学に関する個別のカウンセリング、学納金の一部が免除されるなどのサポート体制が整っています。）

就職に関しては、長い伝統に支えられ地元企業に好意的に受け入れられて毎年100%を達成しています。学生生活全般はもちろん進路指導でもアドバイザー制（少人数担任制）を活用し、個々の学生の希望を確認しながらよりよい進路選択ができるように指導しています。アメリカの姉妹校ウィットワース大学やキャピタル大学、国内十数校との指定校提携があり、富山大学などの国公立大学も含めて多くの編入学の実績を持っております。

昨年、短期大学50周年記念事業の一環として、英語科同窓会から「教育設備金」として頂いたご寄付により、LL教室隣に「コミュニケーションラウンジ」を設けることができました。ここでは授業外のリラックスした雰囲気の中で外国人講師と英語でコミュニケーションが図れるようになっていきます。また5～8名の少人数授業のほか、コンピュータを使って課題をしたり、インターネットやCDROMなどで自分のペースにあわせて英語の学習をすることができるようになっており、学生もとても喜んでおります。同窓会の方々のご好意を心より感謝いたしております。今後とも英語コミュニケーション学科への暖かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



■ 教養学科

教養学科長
高島 涼子

教養学科の特徴はまず多方面にわたる学習という点です。「教養」は目に見えず人によって考えも違うところのないものと考えられがちですが、生きていく上での土台という点では誰もが納得できるはずで、この土台を多方面にわたる学習で形成していくのが教養学科です。代表的な科目をいくつか紹介しますとまず「園芸」があります。この科目は1年間を通して、土地を耕し、種をまき、野菜や果物を収穫し、花を咲かせるというもので、新入生達は最初ミミズに叫び、作業にはすぐ疲れ、夏の暑さに不平をこぼしますが、卒業後一番懐かしがる科目でもあります。



次に「北陸の文化と歴史」があります。私達は案外自分の住んでいる場所について知らないものです。一方、自分の出自を知ることが実は世界に通じる道でもあります。国際化というならまず自分達の住んでいる場所や文化について知ろうということでこの科目が設けられまし

た。石川県の伝統文化や遺跡などから北陸の文化と歴史を学びます。この他にもコミュニケーションの手段としての言語やコンピュータ操作の修得に学生達は励んでいます。

2番目の特徴は、主な行事は学生が主体となって行われるという点です。例えば、スポーツデイがあります。これは1、2年生と教職員全員が参加して半日スポーツで汗をながし、それからバーベキューの昼食をいただく行事で、ゲームの進行や審判について準備の段階から学生が計画、運営します。もちろん教員はアドバイスはしますが主役はあくまで学生です。修養会も学生が主体となって実施されます。この行事は日常から離れた場所で集中的にキリスト教について学ぶもので、テーマの設定、講師の選択、2日間のスケジュール、進行、司会等すべて学生が中心です。

教養学科での2年間で、主体性、自己表現能力、コミュニケーションの方法、チャレンジ精神、そして生涯学習の方法を身につけてほしいと願いながら、毎日学生達と向き合っています。



■ 人間福祉学科

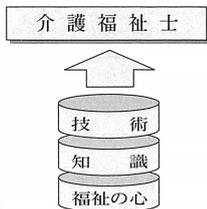
人間福祉学科長
千葉 茂明

■はじめに 平成11年4月に、当時の文部省、厚生省の認可がおりて開設された当学科は、平成13年3月に第一回の卒業生を送り出すことが出来ました。卒業生は介護福祉、医療福祉分野を中心に就職希望者の100%が決定をいたしました。また、皆様の同窓会にも加えていただくことになり諸先輩の方々との交流を期待いたしております。

急速に進む日本の高齢社会は、介護福祉士資格を持ったマンパワーが必要とされております。その期待を背負った第一期生は、十分に期待に応える実力を身に付けて社会に巣立っていきました。

ところで学科名を付けるに際して、介護福祉士を養成することは、資格を取得するだけでは充分と考えず、特に温かみや思いやり、人権、尊厳を守ることに懸命なマンパワーを養成したいとの願いから、学科名を「人間福祉学科」といたしました。

■本学の建学精神に基づく人材の育成 本学の5番目の学科として創設されました。定員80名で、国家資格である介護福祉士を卒業条件に授与されるものです。本学の建学の精神であるキリスト教の人間観を土台に「知識」「技術」「心」を三位一体とした福祉教育を実践しています。特に、福祉分野に働く者として必要条件である『福祉のこころ』を理解し、その土台の上にサービス対象者の命、尊厳、人権



さらに人生を支援する者として『幅広い福祉知識』の修得、加えて『正確な介護技術』を獲得し、介護福祉士としての高度な専門性を確立しております。

■1年生からのゼミ活動や諸行事 学生相互さらに教授との交流・親睦、研究を通して幅広い豊かなキャンパスライフとなることを目的に学生の主体的運営でゼミ活動が行われています。また、新1年生のための春のフレッシュマン・セミナー、介護実習として施設現場に出かける前のデターミネーション・サービス（決意式）、皆さまも記憶にあると思います秋の修養会にあたるグッドサマリタンセミナー、さらに卒業生のアフターケアとしてホームカミングディ（毎年7月31日）などが行われております。

■皆さまの子女を是非人間福祉学科へ 同窓生の方々の第2世、第3世となる学生が入学されております。福祉分野に興味のあるお嬢様には、是非本学科にお勧めください。本学科は、介護福祉士の資格だけでなく、社会福祉主事任用資格、介護保険事務管理士受験資格、医事管理士および医療管理秘書士受験資格が取れます。また、さらに勉学を推し進めたい者には福祉系四大への編入の道も開かれております。最近、社会人入学生として再入学する同窓生も増えております。皆様のチャレンジも歓迎いたします。



母校の開学50周年をお祝いで

北陸学院短期大学は、昨年、開学50周年を迎えられました。秋に行われました記念行事には、同窓生も多数出席し、慶祝の時をもちました。

【開学50周年記念行事】

記念講演会	2000年10月13日(金) 19:00～	【金沢市文化ホール】
	講師 小塩トシ子氏 (フェリス女学院大学名誉教授)	
記念感謝礼拝	2000年10月14日(土) 9:00～11:00	【番匠鐵雄記念礼拝堂】
記念感謝会	2000年10月14日(土) 12:00～14:00	【金沢ニューグランドホテル】
資料展示	2000年10月12日(木)～17日(火)	【香林坊大和8階催事場】

なお、同窓会より次の寄贈をいたしました。

1. 献金 200万円
1. 番匠鐵雄記念礼拝堂 銅製銘板 1基
1. 絵画「三小牛キャンパスの四季」額 4幅1組
一水会委員 端名 清 (北陸学院短期大学 教授 笠間 清) 作
1. 絵葉書「三小牛キャンパスの四季」(4枚組 350部)

記念礼拝に出席させていただいて

加藤 市子
1952年度卒業
保育学科2回生

50年という年月は人生で考えればけっこう長いはずなのに、なんと短かく感じたこの日でした。若草教会牧師楠本先生の語られるメッセージから保育短期大学設立において、ライザー先生をはじめ諸先生方並びに関係者の方々が私どもの信仰の祖アブラハムの生き方と同じように、信仰をもって苦難と戦い忍耐をもって開学を実現されたことを、あらためて示され私にとって学院生活は、保育科2年間だけの学びでしたが保育者としては何度も暗礁にのりあげながらも今日まで現職に在ることを心から感謝したいと思います。当時を振り返りまして諸先生方の授業を想い出します。授業において、全身からほとばしり出る暖かさやエネルギーが伝わってきました。現在の学生数からみれば考えられないような少数だったからかもしれませんが、すべての面に行き届いていて過保護ではなく、本当に一人一人の学生を大切に考えて学生生活を過ささせていただいた記憶が残っています。最近参加している自主研究会で学んだのですが、『大切』という言葉のもつ意味の深さ、広さ、重さについて感じています。大切に学ばされたことと想起できることが社会人として自律できたのだと感謝しています。番匠鐵雄先生は、よく「あなたがたが人前で挨拶させられるような場合みことばが用いられるくらい聖書を学ばなきゃならぬ」と言われましたし、また「この礼拝堂へ今イエスがはいて来られたらみんなはどのようにするかね……」と私どもに主を身近に感知できるよう魂に迫りを与えられ



した。そして、保育科を卒業する前に、私は南先生に保育科が2年間では短いのではないかと本当はもう1年実習しながら学べる3年間だったらいいのとお話したことがありました。先生は「2年間でもあとは現場に出てその人の学び方ですよ。」と答えられました。

2年後私は金沢を離れて半世紀近く経過しましたが、それぞれの師が話されていたことが時代とともに激しく変化する現場で戸惑う事柄にも常に問題意識を感じて、追求しようと努力する気力を湧かせていただき今日まで現職のまま歩めましたのも原点は、保育科の2年間だったと確信しております。ただ50周年記念礼拝に、生き生きとした活気が感じられなかったことが非常に淋しく思いました。この度の一連のお祝い行事中食事で申せば礼拝は主食になる部分なのに何故だろうと帰途途中で思いめぐらしていました。あらためて大隅学長さんの北陸学院報の巻頭の文章にて私の何故だろうと疑問に思った内容を理解することができました。責任の立場にある大隅先生の苦悩を覚え、直面する困難を克服して前進していただきたいと願うばかりです。

私の職場でも8年前に突然保護者の考え方に今までに理解出来ないような問題を感じ、以前のやり方では解決できず、エスカレートしていきました。同時に自分の園の問題だけでなく社会全体教育の場もすべてが根底から崩れ、それぞれ自己改革に全力投球を続けてきました。やっと少し方向を探りつかむことが出来はじめました。

積極的に他流試合、自主勉強が私の園の場合効果があったように思います。今日激しくすべての分野が多様化する時代に、短期大学にも男性を迎えられてもよいのではと思いました。

開学50周年記念礼拝に出席して

岡田 俊子
1966年度卒業
食物栄養学科3回生

大阪より出席したその日は、秋空が青く澄みわたり、白い校舎と木々の紅葉のコントラストがとても美しい日でした。礼拝堂にいっぱいの人々と共に讃美歌をうたい、メッセージを聞きました。日本一小さくて、古いと言われ、22名の学生で出発した当時、北陸の女子教育の為に、夢と幻と希望をもったアメリカ人宣教師の心に播かれた種が実を結んできていて、現在は5つの科ができ、学生数も多くなり、また、社会に出て卒業生が活躍している姿は、その時にうたわれた♪芽生え育て、その枝を張る木となりぬ♪その通りでした。



記念感謝礼拝

また、たまたま私達の年代が、柿木島の旧校舎の最後の卒業生で、番匠院長が、その当時の礼拝で語っておられたことを思い出しました。三小牛山に大きな十字架を立て、神の栄光をあらゆる総合学院の構想でした。目を見張って聞いていたその私が、神の憐みで、三小牛山に引越しをする時には、職員としてお手伝いをしているという恵みにあづかりました。

私自身のこと、小松で生まれ、何も知らない者でしたが、栄養士になりたいと本校を受験したのが、神と出会うきっかけとなりました。1年間はしっかり反発をしましたが、2年目に真理を求めて受洗を決めました。「神を畏れる事は知識の根本なり」その学院標語は今も心の中に流れています。当時、友人達とディーター先生の部屋に通って学び、暗唱聖句に頑張った事も懐かしい思い出です。「神は、神を愛する者達、即ち、御計画に従って召された者達と共に働いて、万事を益として下さる。」「私達が自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方であるから、その罪を許し、すべての不義から私達をきよめて下さる。」「患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出す。」等です。これらの聖書の言葉が、人生の様々な折に力を与えてくれました。今回のパーティーの時に、ディーター先生が、アメリカ

より来られていて「イマデモ、オボエテイマスカ」と問い返されました。若き時に、良き師、先輩、友人に出会わせて下さった神に、感謝をしました。

東京、レバノン、大阪と転勤し、現在の大阪が最も長く住んでいることになりました。栄養士の仕事も市町村、保健所、大阪府栄養士会に、少しずつですが関わらせていただいています。家族も全員、神を信じて生活していることは、何よりの感謝です。「主は私の牧者であって、私は乏しい事がない。あなたが私と共におられるからです。私の生きている限りは、必ず、恵みと慈しみが伴うでしょう。」という、神の約束の言葉が、今日も私を生かしていきます。神の平安が、読んで下さっている御一人御一人の上にありますように。

21世紀に残っていくもの

鬼頭 薫
1971年度卒業
英語コミュニケーション学科7回生

少子化により、今、日本の大学は大きな変革期を迎えている。自分で考えて行動し、表現する能力が重視される時代・21世紀。その21世紀を生き抜いていくための教養を身につけるには、どんな教育をすべきか。各大学が模索中であろう。専門教育はある事を深く考えさせる。教養教育は専門教育を大切にしながら、幅広く考えさせる。この両方のバランスがうまく取れた教育をしなければならないとするならば、果たして2年という期間で可能なのだろうか…。

男女雇用機会均等法制定10余年。今、男女平等を目指し、日本の社会が動いている。その中で男性、女性と性を区別する教育機構があって良いものだろうか…。

こんな事を考えながら、50周年記念講演会・感謝会に出席していた。短期大学、女子大学の存続が危ぶまれる昨今、これまでの50年が、決してこれからの50年につながるものではないという事を、ひしひしと痛感した。保育科設立よりの50周年記念という事だが、私が卒業した英語科設立50周年記念は、13年後に果して迎える事ができるのか。担当教授から定員割れ目前の窮状を聞かされ、はなはだ心もとない。

講演会タイトル「21世紀に向けて残すべきもの」で



記念感謝会

はなく、残したいものは、必然的に残っていくのであろう。例えば、感謝会でのハンドベルとフルートが奏でた「故郷」。こんな単純な共鳴という原理で人を感動させる音楽。何かしら心揺さぶるものが、世紀を超えて残っていくに違いない。

私の人生の中で、三小生での2年間を除くことはできないのに、残念ながら卒業後、英語と神とは縁のない29年間を過ごしてきた。この記念行事に参加して、「感謝」という言葉の素晴らしさを改めて考える事ができた事が、大きな収穫である。

「神様から一つの使命を与えられて建てられたと信じ、困難に立ち向かう」との、大隈学長の力強いお言葉に心打たれ、北陸学院短期大学が、どんな形であろうと、21世紀に残っていく魅力ある大学であって欲しいと願っている。

感謝礼拝と思い出

前田 敦子

1985年度卒業
教養学科17回生

感謝礼拝が行なわれた番匠鐵雄記念礼拝堂が完成したのは私たちの在学中で、その厳かな雰囲気皆、大好きでした。卒業式には建物の前で記念写真を撮り合ったものです。今回、秋晴れの空に三小生の紅葉を背景とした礼拝堂のたたずまいもまた素晴らしく、再会した友人たちと再び記念撮影となりました。

礼拝では、短大最初の入学者は、わずか22名だったとお話がありました。私の同期生は、教養学科だけでも約90名。人数からして、50年前とは大違いです。入学初日からとても賑やかなクラスでした。授業中におしゃべりの度が過ぎて、クラス全員で話し合いの時間を設けた程でしたから、大学生というには幼かったかも知れ

ません。それでも先生方は意識して学生を大人扱いしておられたように思います。それを最も意識したのは2年生の後半でした。



資料展示

春、年度初めに私は先生から学友会の役員になることを打診され、名前だけの役職だろうと軽い気持ちで引き受けました。しかしその年は学院創立百周年。学友会の行事も盛大に行なわれることが決まり、全く想像していなかった仕事が降りかかってきました。学生の意見を取りまとめたり、外部の方との折衝等、自分には責任が大きく、苦手なことばかり。先生の研究室に相談に伺った際に、話しながら涙が止まらなくなったこともありました。

そんなときいつも先生方は私を大人として…、もっと言えば一人前の「レディ」として扱って下さいました。意見には丁寧に耳を傾け、それを尊重しながら、助言して下さいました。二十才とはいえ、まだまだ周囲は子供扱いする時期です。先生の期待に十分に答えられたとは思えません。それでも何とか役目を果たせたのは、「レディ」としての責任感を知らないうちに植えつけられていたからでしょう。

讃美歌を歌い、聖書の言葉に触れ、祈禱する間、心は日常の慌たしさからしばし解放され、帰り道は少しだけ足取りが軽やかだったかも知れません。母校にはきっと他の場所にはない何かがあるのです。

北陸学院短期大学 開学50周年記念誌 メリー・ヘッセルの生涯

発行・北陸学院短期大学
編著・前英語科教授 梅染信夫
校閲・短期大学学長 大隈恵子
書籍版・上製・280頁

～同窓会員の皆さんに贈る、
北陸学院の創業者
メリー・ヘッセル先生の
伝記です。～



■購入方法

- ①短期大学の窓口で実費900円払う
- ②郵便振替にて1300円を送金する
(加入者名 学校法人北陸学院 口座番号 00790-2-533)
いずれかの方法でご購入いただけます。

◆ 図書館利用について ◆

ヘッセル記念図書館の資料が借りられます

北陸学院短期大学ヘッセル記念図書館では卒業生の皆さんに図書館の資料の貸出をしています。



最初の来館時に図書館1階のカウンターで登録手続きをして下さい。
手続きの際には
「住所の確認ができるもの（運転免許証・保険証等）」と
「利用証発行手数料200円」をご持参下さい。
『図書館利用証』を発行します。

館外貸出は図書は5冊まで2週間です。
視聴覚資料、その他については館員にお尋ね下さい。

図書館では卒業生の皆さんの趣味や学習のためにお役に立てばと思っています。
どうぞ、お気軽にご利用下さい。



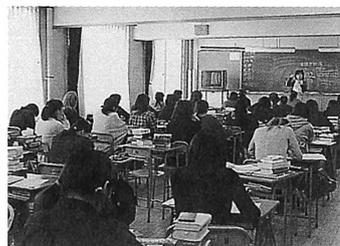
生涯学習へのお誘い

～もう一度学びたいあなたへ～

社会人として活躍されている同窓生の方々に、『科目等履修生』制度をご紹介します。

『科目等履修生』制度は、社会人が大学で研修・聴講できる、国が認めた制度です。専門分野の最新知識を身につけたい、免許を取得したい、心豊かに学びたいという方のために、本学においても『科目等履修生』の募集が行なわれています。短大の開講科目の中から好きな科目を選択し受講することができます。資格取得科目を履修すれば、正規の大学の単位として認定されているので、資格を取得することも可能です。

“生涯学習時代”の今こそ、自分に合った学び方を母校で見つけてみませんか？



取得可能な資格：図書館司書資格 ビジネス実務士 幼稚園教諭二種免許
 中学校教諭二種免許〔外国語(英語)〕 栄養士免許 情報処理士
 園芸装飾士3級受験資格 レクリエーションインストラクター資格

科目等履修生を終了して



北村富貴恵

1978年度卒業 保育学科28回生
 鶴来町立明光小学校 図書館司書

今年3月9日、私は教養学科の科目等履修の修了証書を頂きました。

22年前、本学の保育学科を卒業し幼稚園に就職、その後結婚退職し家庭に入っていた私でしたが、“すべての子どもに読書の喜びを”をもとに活動していらっしゃる「石川子ども文庫連絡会」や“学校図書館に専任の司書を！”と願っている「石川・学校図書館を考える会」の皆さんとの出会いがきっかけとなり、図書館についてもっと知りたいと思い、科目等履修生として入学しました。

主婦としてずっと家庭の中にいた私が、勉強についていけるのだろうか、若い学生の皆さんの中でやっていけるのだろうか、など不安もありましたが、2年間はとても短く、もっと勉強したいとも思いました。実際、22年前に保育学科を卒業した友達の娘さんと同じ教室のこともあり、自分の年齢をつくづく感じましたが…。

私は、キリスト教を信仰しているわけではありま

せんが、修了式での、マタイによる福音書7章7節～8節「求めなさい。そうすれば、与えられる。探みなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」この聖書の言葉がとても強く心に残っています。

今私は、明光小学校の図書館司書として忙しい毎日を送っています。修了式の時には全く予想もしていませんでしたし、短大から連絡を頂いた時には、喜びととまどいもありましたが、聖書の言葉「門をたたきなさい。そうすれば開かれる。」が思い出され決心しました。

今、自分の人生を振り返り、何か思うことがある方は、是非、一步踏みだしてみたいはいかがですか。科目等履修生としての2年間は、22年前の2年間よりも貴重な時間でした。

ご指導頂いた先生方、事務の方、本当にありがとうございました。

科目等履修生についての詳しい内容をお知りになりたい方は短期大学事務局にお問い合わせ下さい。

北陸学院短期大学事務局教務課 〒920-1396 金沢市三小牛町イ11
 TEL (076)280-3850(代) FAX (076)280-3851

北陸学院短期大学同窓会 のみ 蚤の市 いち

毎年恒例となりました同窓会主催の『蚤の市』が、北短祭の一般公開に合わせて今年も秋に開催されます。

■ **日時** 2001年11月3日(土)
午前9:30～ 売り切れ次第終了

■ **場所** 北陸学院短期大学構内ライザー記念館

～ご家族、ご友人お誘い合わせお越しください～
(coffee、紅茶、抹茶のコーナーもあります。)

衣類 器 小物……etc.
あなたのお好きな
物が見つかります。

是非 献品にご協力ください!

—2001年10月末日までに—

★ 献品の品 ★ ・ 新品同様な品 ・ 着用可能な衣類

★ 献品の方法 ★ ・ 同窓会事務局へ持参 ・ 郵送も可 (短大同窓会宛)

同窓会活動内容

★活動目的★

母校の教育活動の発展に寄与する。
会員相互の理解と親睦を図る。
短期大学で学んだ高い理想と教養を保ち、広く社会に貢献する。

この目的のもとに活動を行います。

具体的な活動としては、これまで各学科の同窓会が行っていたものを今後も引き継いで行う予定です。

1. 北陸学院短期大学の記念行事及び事業への参加と協力
2. 会報の発行
3. クリスマス会 (毎年12月第1土曜日午後1時30分から)
4. 「蚤の市」の開催 北短祭一般公開にあわせて開かれ、収益金は全額北陸学院教育振興資金・基金に募金致します。
5. 自主的活動として 講座・討論会・ボランティアなど
 - ・ 「ぼちぼちいこ会」絵本に興味のある人が集まる絵本の勉強会
 - ・ 「からだねの仲間たち」動物とのふれあい活動など
 - ・ 「Tルーム」(Tea Teacher Talking) 短大の先生方や同窓生がコーディネーターとなり勉強する会
6. その他
 - ・ 同窓会賞 短期大学2年生の各科1名ずつ計5名の、学業のみならず多方面において顕著な活動があったと認められた方に贈ります。
 - ・ 再就職希望者の登録



からだねの仲間たち

会員の皆様の今後の活動に対するご質問・ご要望・ご提案などがございましたら、同窓会事務局までお寄せください。なお、事務局には月・水・金曜日の午前10時～12時の間、事務局員が在室しております。

皆様のお声をお待ちいたしております。

北陸学院短期大学同窓会事務局

〒920-1396 金沢市三小牛町イ11番地 ライザー記念館内

TEL/FAX 076-280-3830 E-mail/jcog@hokurikugakuin.ac.jp

■編集後記：北陸学院短期大学同窓会誌“栄光台の薫風”を創刊しました。同窓の皆様には、この同窓会誌を通して母校へ、同窓生同士の繋がりが深まればと思います。尚、原稿をお寄せ頂いた方々をはじめ、発刊に携わって頂いた方々に心より感謝致します。

題字“栄光台の薫風”は北村靖子さん(1964年度卒業 保育学科13回生)に、それを囲む挿絵は鏗 正美さん(1978年度卒業 教養学科10回生)に書いて頂きました。(編集委員)

2001年6月15日発行

発行：北陸学院短期大学同窓会

〒920-1396 金沢市三小牛町イ11番地

TEL/FAX 076-280-3830

E-mail/jcog@hokurikugakuin.ac.jp

印刷：活文堂印刷株式会社